

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2017年3月）の予測

発表日：2017年4月28日（金）

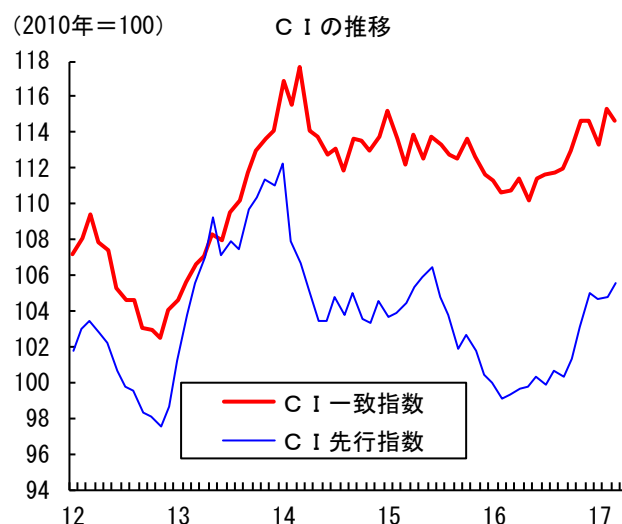
～C I一致指数は前月差低下も、均してみれば改善基調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から5月10日に公表される2017年3月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲0.6ポイントと予想する。中華圏の春節のタイミングの影響で、1月のC Iは前月差▲1.4ポイントと下振れ、2月は前月差+2.0ポイントと上振れとなっていた。3月は、この2月の上振れ分の反動が出たことが前月比での低下につながったものと思われる。均してみれば、C I一致指数は上昇傾向にあると評価してよいだろう。3月の内訳では、小売業販売額や卸売業販売額、有効求人倍率などがプラス寄与となる一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数、投資財出荷指数などの生産・出荷関連系列の押し下げが目立ち、全体ではマイナスになったとみられる。

また、3月のC I先行指数は前月差+0.8ポイントを予想する。先行C Iは16年2月を底とした持ち直し傾向続いていると評価できる。先行C Iが改善していることは、先行きの景気を占う上での好材料だ。なお、3月の内訳では、最終需要財在庫率指数がマイナス寄与の一方、消費者態度指数や新設住宅着工床面積などの押し上げが大きかった。

なお、内閣府によるC I一致指数の基調判断は、6ヶ月連続で「改善」が予想される。3ヶ月移動平均前月差の値は0.0と、これまでのプラス基調がいったん途切れる形になるとみられるが、基調判断下方修正の基準は満たさない。また、4月の生産予測指数が非常に強いことを踏まえると、4月のC I一致指数は明確な上昇になる可能性が高く、3ヶ月移動平均前月差の値も再びプラスに戻るだろう。基調判断はしばらく「改善」が継続することが予想される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2017年3月は第一生命経済研究所による予測値